

初倉地区小学校再編に関する初倉地区全体での 意見交換会について

日頃から島田市の教育行政に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

島田市教育委員会では、昨年9月に「島田市教育環境適正化検討委員会」からの提言を受け、学校再編などの教育環境整備に取り組んでいるところです。

提言書では、初倉小学校と湯日小学校を統合し、将来的には初倉南小学校を初倉小学校に統合した上で、初倉中学校を含めた準一体型の小中一貫校とすることを検討すべきと示されています。提言では「将来的に」とされていますが、教育委員会では、初倉小学校、湯日小学校、初倉南小学校の3校を同時に統合することについて検討をしています。

初倉公民館において、初倉地区の小学校再編に関する保護者、地域住民の皆様との意見交換会を開催しました

3月28日に初倉公民館において、初倉地区の小学校の保護者、今後小学校へ進学する未就学児童の保護者、初倉地区の自治会の皆様を対象に、学校再編に関する意見交換会を開催しました。

参加者：70人（保護者：49人 地域住民：19人 その他：2人）※託児利用3人。

教育委員会からの説明

<教育長より>

毎年学校訪問を行っていますが、最近の初倉地区の子供たちの様子はたいへん安定していて授業も充実していると感じています。地域においても寺子屋事業、放課後子ども教室など、地域の皆様の支援が行われていますことを感謝申し上げます。

これからの社会は変化が激しいといわれています。一番大きな理由は、人工知能やコンピュータといった技術の発展だと思えます。2040年には今ある職業の60%ぐらいが無くなっているのではないかとされています。もっとも、無くなる職業もあれば新しい職業も生まれると思いますが、そういう変化の激しい時代を生きていく子供たちにとって、どういった教育を行っていかなければならないのかというのは日本全体の大きな課題となっています。文部科学省もこのような時代背景におきまして、様々な制度改革を行っております。例えば、アクティブラーニングの導入、プログラミング教育の必修化、小学校の英語活動の教科化などがあります。子供たちには、こうした教育を通して、困難にも負けない強い心とか、新しいことへ挑戦していく意欲とか、多様な文化を持った外国人などとのコミュニケーション能力といったことも求められるのではないかと考えております。

このような時代背景を受けて、平成27年から2年間かけて、小中学校の在り方検討委員

会を開きました。この委員会では、「島田市の子供たちにどうい教育をすべきか」ということについて話し合われました。その中で、「市民総ぐるみの教育」「夢育・地育」「小中一貫教育」の3つの教育方針について提言がされました。また、当委員会の話し合いの中では、複式学級が連続することは、子供たちの教育上あまり好ましいことではなく課題が大きいということもいわれています。

また、これからの新しい時代に向けての教育を、どこか学校を指定して研究するように、ということも提言の中に含まれていたことから、初倉中学校区を「夢育・地育」の研究指定をしました。教育委員会としても初倉地区の夢育・地育の研究指定を支えるために、ALTの配置、寺子屋事業、イングリッシュ教室などに配慮をしましたし、小中兼務職員（例えば、初倉中の体育の先生が小学校と中学校の両方に勤務する）というようなことも行っています。

それから、小中学校の在り方検討委員会からの提言を受けて、平成29年から教育環境適正化検討委員会が開かれています。どういう規模で教育をすることが望ましいかということをも具体的に研究しました。この委員会からの提言では、「子供を最優先にした学校づくりをすべき」ということを念頭におき具体的な再編案の内容となっています。

統合というものは、100%の皆様が賛成することは非常に難しいと思っています。保護者の皆様、地域の皆様それぞれの考えがありますが、最終的には子供の視点を大事にしながらか話を進めていけたらと思います。

さて、本日の意見交換会は、結論を出す会ではありません。ここでいただいた意見をもとに、もう少し具体的にどういのかたちで統合を進めていくか検討する会がありますので、そこで最終的な結論を出していきます。

<島田市教育環境適正化検討委員会からの提言について>

「島田市小中学校教育環境適正化検討委員会」は、武井静岡大学教授が委員長となり、地域や保護者や学校関係者等を委員として、昨年9月20日に提出されました。その後も、総合教育会議や議会等でも取り上げられ、さまざまな御意見をいただいております。

もう既に「提言書」をご覧になった方もいると思いますが、今回初めて参加する方もいると思いますので、簡単に説明させていただきます。

「提言書」の1ページには、第1章「島田市の教育の現状と課題」が述べられています。本日の資料6ページに初倉地区の児童数推移（推計）がありますが、他地域に比べると緩やかではありますが、全体的には減少傾向が見られます。

「提言書」3ページ第2章には「アンケート及び意見交換会の概要」が掲載され、保護者はクラス替えができる人数や、登下校の安全性や利便性等を求めている事がわかります。

第3章「教育環境の適正化に向けた基本的な考え方」では7つ挙げられていますが、主なものとして「1.子供のニーズを最優先にし、全市ぐるみで対応すること」「2.教育委員会と市長部局は緊密な連携を取ること」「5.再編対象地域へは政策的優遇措置を講じ教育先進地域へ発展させること」「6.児童生徒数が1学年20人を下回る場合は、文科省の適正規模や配置の手引きを参考に、早期に再編を検討すること」などが述べられています。

「提言書」7ページ第4章の「学校再編の方針案」では、初倉地域の1案が提示されてい

ます。そこには、早期再編を望む保護者が多い湯日小学校は、先行して統合することが望ましいと書かれています。将来的には初倉南小を初小に統合し、小中一貫教育校を検討すべきとも書かれています。3つの小学校の同時統合には、初小の増築が必要で、地域住民の意向も踏まえ慎重な議論が必要と書かれています。

「提言書」11ページ第5章には「新たな学校づくりのロードマップ」が記述されています。1の計画策定のための組織に「①学校再編計画策定委員会」があり、学校配置及び校舎の利活用を含む基本方針を策定します。また、主に関係学校間による「②カリキュラム等検討委員会」は、特色ある教育について検討していくものです。「学校再編計画策定委員会」は、市長部局も入り、2019年8月を目処に、教育だけでなく地域の活性化についても、希望の持てる学校配置及び校舎の利活用を含む基本方針を策定し、2020年3月迄に計画の骨子を固めることが理想的であると書かれています。

また、「提言書」の最後12ページに「計画策定にあたり考慮すべき点」が付け加えられています。例えば、「湯日小学校の保護者には早期再編を望む声が多いこと」「湯日小学校区には金谷小、金谷中の方が近い地区があること」「通学の安全と時間短縮などを十分考慮したコミュニティバスやスクールバスを運用すること」「校舎の利活用を推進すること」「再編に向けた交流学习を行うこと」その他にも、「新学校の名称やカリキュラム」「地域住民の学校参画への枠組」「地域への政策的優遇措置」「地域の伝統継承や活性化支援」などについても議論を重ねていくように述べられています。

今後は、市長部局が入ってくる「学校再編計画策定委員会」の進捗状況や決定を受け、関係学校を中心にした「カリキュラム等検討委員会」を開催し、新学校の特色について話し合っていく予定です。

1つは「小中一貫教育の実施」です。「小中一貫教育」により9年間を見通したカリキュラムを構築し、教師は長期的な目標を踏まえて効率よく授業を行い、社会見学や修学旅行等の行事の重なりもなくすることができます。その他にも、小・中学校教員が週時程の中で移動して授業を行ったり、小・中間の人事交流を行ったりして連携を深めることができます。更に、中学校の専科教員が小学校で授業を行ったりすることも考えられます。また、「小中一貫教育」により、小中連携が加速され、小・中の接続が一層円滑になり、不登校などの原因になる、中1ギャップが解消されていく可能性があります。また、地域住民の学校参画の枠組みを整えるために、島田市教育委員会では2020年度から、市内全小中学校でコミュニティスクールを実施する予定です。例えば、学校再編が図られた地域において、それぞれの地域の代表が学校運営協議会の中で、学校の運営について協力して決めていくことが可能になります。

更に、平成24年度の文部科学省調査で、通常学級を含めた特別な支援が必要な児童生徒の割合は約1割に増加しているという報告がありました。市内でも集団適応などに困難を感じている子供や保護者が、通級などの専門性のある教員の早期で適切な指導により、大きく改善された事例が報告されています。その事から、再編された学校につきましては、特別支援学級をはじめ、通級教室も配置し、早くから専門的な指導ができる体制も検討できます。

その他にも、学校行事や総合的な学習の時間に、旧小学校校舎を使用した野外活動を計画したり、伝統芸能などもその地域の子供だけでなく、多くの児童生徒に経験させたりす

る授業も検討することができます。

更に、再編に伴い、タブレットや電子黒板などのICT機器を集中的に整備し、国際理解教育やプログラミング教育等の最先端教育を施すことも検討できます。

これらの教育内容について具体的に決定していく「カリキュラム等検討委員会」は、「学校再編計画策定委員会」と並行して平成31年度中に、開催していく予定です。

<提言を受けての検討事項>

教育委員会では、教育環境適正化検討委員会から最終提言書を受けた後、教育委員会定例会や総合教育会議で、「学校再編について」をテーマとして、市長と教育委員との意見交換を実施しています。

その中で、提言書で示す、湯日小学校を先行して初倉小学校と統合し、将来的には初倉南小学校を統合した上で、初倉中学校も含めた準一体型の小中一貫校とすることも検討すべきという再編案に対して、「初倉地区の中で、3校同時統合を望む方の声も聞いている」等の意見や、「現在、初倉地区では『夢育』や『地育』を初め、大変成果の上がる取り組みをしている、その初倉地区でもう一步進め、『小中一貫教育』を推進していくことで島田地区の第一歩となる可能性が高いのではないか。そのためにも、初倉南小学校区の保護者や地域住民の考えを聞くことが必要である」という意見を受けました。

教育委員会では、3校同時統合についての意見がどのくらいあるのか確認をする必要があり、統合に対する意向を聞くため、12月13日、12月17日、1月19日に、初倉南小学校区の保護者や地区の方を対象に意見交換会を開催しました。また、3月9日には湯日地区でも意見交換会を開催させていただいています。

意見交換会の中では、具体的に再編時期を示したほうが意見を出して頂きやすいということから、初倉小学校の校舎規模で、職員室の増築や下駄箱の対策をほどこし、受け入れが可能となる、普通教室数が25クラスになる2022年度（平成34年度）という時期を案として提示させて頂いています。

初倉南小学校区の意見交換会では、大きく分けて、①初倉小学校への登下校の距離が延びることによる交通安全等の不安、②現在のクラス数が各学年2クラスあるため初倉南小学校は統合不要、③学校施設の充実が必要、といった意見がありました。

また、湯日小学校区では、初倉小学校との早期の再編を望む保護者が多数いる一方で、「地域から子供がいなくなることにより地域の活力が失われるのではないか」との不安から、再編に慎重なご意見の方もいらっしゃいました。

また、それぞれのアンケート調査の結果を、3ページから6ページに掲載していますのでご覧ください。

なお、再編時期として提案させていただいている、2022年度（平成34年度）は決定事項ではなく、本日の意見交換会もそうですが、それぞれの意見交換会やアンケート調査の結果を参考にし、「学校再編計画策定委員会」の中で、再編する学校や再編時期について協議・検討を重ね、「島田市立学校再編計画」を策定していくことになっています。

この策定委員会の委員は、再編の対象となっている初倉地区、北部地区の小中学校の校長10名と教育長、教育部長、市長戦略部長、行政経営部長、学校教育課長で組織し、1回目を2月22日に開催したところでございます。

<初倉地区の児童数の推移推計>

初倉地区の児童数の推移について御説明いたします。

記載されている初倉地区児童数推移（推計）のグラフですが、初倉地区3校の合計人数を折れ線で示し、各校の人数を棒グラフとしています。ここで示す人数と、これから説明させていただく人数は、平成30年4月1日現在の住民基本台帳を基に作成したものですので、現在の人数と異なる場合があります。

資料の8ページをご覧ください。これは、2019年度（平成31年度）から2024年度（平成36年度）まで6年間の「初倉地区学校別学年別児童数推計」について作成したものです。各年度の学校別、学年別の人数の推計を表し、学年ごとの児童数の計でクラス数をカッコ書きで記載し、一番右の欄に初倉地区小学校（3校）の合計児童数とクラス数を記載してあります。なお、2019年度の特別支援学級、6年の横に特支となっていますが、その14人は実数となっています。2020年度以降は、人数の把握ができませんのでカッコ書きとし、合計人数には含んでいません。

まずは、右の欄、3校同時に統合した場合の人数と特別支援学級を含んだクラス数です。2019年度（平成31年度）は、児童数が688人で27クラスですが、一番下段の2024年度（平成36年度）には、児童数が664人となり、クラス数は24クラスになると予測されます。

湯日小学校を見てみますと、2019年度（平成31年度）は、児童数は38人でクラス編成は、1年生5人と6年生12人が単学級、2年生4人と3年生7人、4年生6人と5年生4人がそれぞれ複式学級となり、4クラス編成がしばらく続きますが、2024年度（平成36年度）には、全ての学年で複式学級となることが推測されます。

また、学校の学級編成基準は、国の方針で定められている人数では、小学1・2年生が1学級35人、小学3年生から中学3年生までは40人を上限とする学級編成となっています。

しかし、静岡県では、どの学年であっても、子供たちのための、きめ細やかな教育を実現するという施策として、県独自の「静岡式35人学級編成」を推進してきました。「静岡式35人学級編成」は、平成21年度中学校1、2年生を対象にスタートしています。その後、対象学年を徐々に拡充していき、平成25年度に、小学校3年生から中学校3年生まで静岡式35人学級編成が完成しています。

島田市でも、静岡式35人学級編成を選択していますので、現在では小学1年生から中学3年生まで、基本的には1クラス35人以下の学級編成となっています。

次に、9ページの資料ですが、これは平成27年10月に作成した「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」初倉地区の将来人口推計の資料となります。

この地区別将来人口推計は、平成27（2015）年3月21日現在の住民基本台帳の人口を基準人口として推計しております。

ただし、地区の人口母体数自体が少ないため、長期間の推計にあたっては、大きな隔たりが生まれる可能性がありますことを御理解いただきたいと思います。

下段の「推計結果」では、初倉地区全体で2020年には12,639人と予測されています。

この、2020年を基準に比較してみると、2040年（20年後）には、初倉地区の総人口は、

10,889人で1,750人が減少。年齢3区分で見ると、年少人口（0～14歳）は1,110人となり473人の減少、生産年齢人口（15～64歳）は5,858人となり、1,336人の減少、高齢人口（65歳以上）につきましては、3,921人となり、59人が増えることが予測されています。

更に40年後の2060年には、初倉地区の人口は8,638人となり、2020年度から4,001人が減少。年少人口では810人となり773人の減少、生産年齢人口は4,280人となり2,914人の減少、高齢人口では2025年の4,020人をピークに減少傾向となり2060年には3,548人となることが予測されています。

このような状況の中、島田市では平成29年度に第2次島田市総合計画、国土利用計画島田市計画を策定したことを踏まえ、これからの具体的な都市づくりの方向性や地域ごとの将来像を定める都市計画マスタープランの改定や立地適正化計画等の策定を進めているところです。

<通学手段について>

初倉小学校に統合した場合の通学方法について、自宅から小学校までの距離が4 km以上、中学校までの距離が6 km以上の場合、スクールバス等の対応を検討していきます。

また、この距離については、文科省で示している「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」の中の「学校の適正配置（通学条件）通学距離による考え方」の中で、小学校4 km、中学校6 kmが示されていることから、現在、市内の対象地区（伊久美地区、鍋島地区、金谷地区、川根地区、北五和地区）については、この距離を適用し運行を行っているところです。

資料の最終ページ、資料6に位置図がありますので、ご覧ください。

初倉小学校から4 kmの位置は、概ね、湯日小学区の初倉西部ふれあいセンターの場所あたりになります。ただし、スクールバス利用の対象地区については、今後、検証し協議していく必要はあると考えております。

また、バス停の場所や運行コースなど具体的な運行方法については、地域の実情に合ったより良い方法を、検討していきたいと考えています。

<学校施設跡地の利活用について>

再編後の学校施設跡地の利活用については、副市長を委員長、教育部長が副委員長となって、市の部長級の職員9人を委員とした「島田市学校施設跡地利活用検討委員会」を設置し、その下に13課の課長職で構成する「幹事会」を委員会の中に置き、様々な可能性について検討していきます。

参考活用例として、幾つか記載していますが、跡地の利活用については、地域の方たちが主体となって考えていただくのが一番だと思っています。初倉地区、北部地区、それぞれの学区、地区の方たちでワーキンググループなどを設置していただき、行政と連携し一緒になってより良い活用ができるよう取り組んでいきたいと考えています。

意見交換

●平成34年度3校同時統合となったとき、今の初倉小学校に児童が入りきれぬのか。提言書にも増築が必要と記載がある。今でも体育館が狭いと感じている。子供の安全を考えると疑問がある。環境を整えてから統合なのではないか。

→○統合により教員が増えれば職員室が狭くなりますし、下駄箱も現状のままでは不足します。体育館が窮屈という点も理解します。平成34年は全ての児童が普通教室に入れる、という推定により出た数値です。不足の点については、教育委員会の責任の下、改修を行なっていきます。子供の教育環境というのは、統合したときに、新しい学校、広々とした環境に入るとするのが一番の理想だと思いますので、今後の再編計画策定の中でお話をさせていただいて、より良い結論を導いていきたいと思っております。

●平成34年度に統合との案であり、それに向けて結論を出さなければならないと思うが、それはいつか。

→○今まで検討を重ねており、また提言書にも記載があるが、今年8月までに再編案を作成したいと思っています。北部地区も同様なスケジュールで進んでいます。

○4月に入ったら、第2回目の学校再編計画策定委員会（以下「策定委員会」）を開催します。原案が出来た時点で、結論とする前にパブリックコメントの実施や、対象地域の方に向けた説明会を開催したいと考えています。

●反対されている方の意見は、どのように扱うのか。8月にまとめる、とのことだが、反対意見はどうするのか。このまま市の方針で進めるのか。

→○冒頭のあいさつにもあったとおり、100%同じ方向に向くのは難しいと考えています。反対意見があったときは、内容を策定委員会に伝え、課題・問題として挙げられている意見については、改善の方向が見えるものがないか、協議していきます。

○大筋としては、少しずつでも賛成者が増えるような配慮をしたいと考えています。

○初倉南小保護者から出た反対意見の主だったものとして、登下校の安全と校舎への不安があります。校舎は増築などの方法があります。

○どのような提案をしていくか、策定委員会で話し合い、地域の皆様に提示してまいります。

●児童クラブの件で、入るときに人数制限があると聞いた（実際には入れた）。出来れば中学年（3，4年）まで受け入れができるようにしてほしい。

●人数が増えてくると、初倉南地区の方は低学年の子供を児童クラブに預ける際に問題がある。（迎えが遠くなる、定員は大丈夫か）

●児童クラブの拡大も考えているのか。

→○このような心配をもたれることは当然のことと思います。児童クラブとして現在使っている教室も、普通教室に戻す予定です。したがって、児童クラブは校舎外に新設することになると思います。

○児童クラブは教育委員会の所管ではありませんが、担当部署と連携して、新しい施設を作って、保護者に負担にならないようにしていきたいと考えます。

○児童のお迎えが大変になることは理解しています。北部地区では、今、児童クラブがあるところで運営し続ける案が出ています。

○初倉地区は、現在初倉南小に通っている子でも初倉小に近い子もいる。ケースバイケースで考え、皆さんに負担にならないようにしていきたいと思います。

●スクールバスの件で、自宅は初倉西部ふれあいセンターの付近にある。3月まで保育園に通っていた子が4kmを1時間で歩けるのか。冬になれば暗くなるのも早く、不安要素である。距離を4kmと言わず、もっと短くしてほしい。考えてもらいたい。

→○この場所で明言は出来ませんが、配慮していかなければならない問題であります。統合における優遇措置の一つにスクールバスもあって考えています。文科省の指針できちっと決めるか、学区でくるか、湯日地区の今後の検討課題であります。今の時点で「こうします」とは言えないことは理解いただきたいと思います。

●今日の説明であるが、12月から進展が見られない。以前の説明会で子供の安全が不安と言った。その際、「今後検討」とのことだったので、今日はアイデアが出ると思ったが、説明がない。8月までに子供たちが安全に通える手段が示されるのか不安。12月からこの3ヶ月間、何を検討していたのか。分からない。反対意見を減らす努力をしていないのに、今後の4～5ヶ月で本当に出来るのか。結論を出す、とのことだが、子供の安全は確保されるのか。

→○課題については、策定委員会の中で検討していきます。その中に保護者の不安・心配も出していきます。今までの意見交換会でお答えを求められているものは、策定委員会の検討前に私たち事務局でお答えはできません。お叱りになる気持ちは分りますが、課題は策定委員会で話し合うこととなっています。慎重にならなければならないというところも、行政主導ではなく、地域の意見を大切にする、というところも御理解を頂きたいと思います。

●提言書の内容を見ると、コミュニティバスかスクールバスを、とのことである。公共交通機関の利用を求められている。中学校区の隣接する学区を選択することもあるのではないかと。

→○御希望として受けとめます。

●策定委員会の動きを教えてください。

→○2月22日に第1回目を開催しました。4月16日に第2回目の会議を開催します。

●反対意見を賛成に変えていくことだが、見当もつかない。策定委員会で話し合ったことを今後も地域に返す場は設けるのか。

→○今までの意見交換会の内容もホームページに出しています。

●反対意見が出ていても、統合ありきで話が進んでいる。この方向は変わらないのか。

→○「平成34年度統合ありき」の話はしておりません。市としての「案」を出しています。それに対して、皆様の率直な意見を頂いて、それを踏まえ、策定委員会で案を練っていくのが今の段階であります。

○登下校の安全対策についても、策定委員会で練っていくことです。したがって、この意見交換会の場で「これならできます」ということは言えません。結論を出すのは、策定委員会であります。

●平成34年度統合ということも、まだなくなる可能性はあるのか

→○可能性としてはあると思っています。策定委員会で結論を出す、その途中経過を皆さんに提示して、最終案をまとめる等、丁寧な対応を考えています。結論ありきの意見交換会ではない、ということをお理解いただきたいと思えます。

○平成34年度としたのは、この地区を教育のモデル的先進地区とする思いと、もう一歩踏み込んで3校同時統合と小中一貫校としてのメリットを考えたものです。

●谷口に住んでいる。小学校まで荷物を持っていない状態で、子供の足で40分以上かかる。心配なのは夏場の暑い中で40分以上歩くこと。スクールバスを考えていただければありがたい。

→○要望として伺っておきます。ただ、現状、川根地区の子供でも1時間程度歩いていることも理解いただきたいと思えます。また、スクールバスが通れないような地区もあり、この場合、保護者にスクールバスが通る道路の所までお子様を送っていただいています。市内の様々な地区の状況を考えて最終的な結論を導き出したいと思えます。

●初倉地区を考える、子供たちに考えさせるいい機会だと思う。子供たちにアンケートをとったり、初小と初南の統合をどう思うかクラスで話しあったり、初倉として今後どうして行きたいのか、自分たちで考えるいい機会だと思う。

→○頂いた意見、充分実施することが出来ると考えます。

○カリキュラム検討委員会で、子供たちをどういうふうにしたいのか、取り込める御意見であり、実施していきたいと思えます。子供たちにも、初倉地域をどういうふうにしていったらいいかと考えさせることは、まさに夢育・地育の究極的な目標であると思っています。地育の目的は、地域が子供たちを育てるとのことと、もう一つ、子供たちが地域を作るというのが大事な柱であります。

●今後も検討し、アンケートをとっていくとのことだが、このまま反対50%賛成17%という状態であった場合どうするのか。統合を強行するのか。

→○たいへん難しい質問です。反対理由も色々あり、その元となる課題をいかに解決していくかが私たちの課せられた課題であります。少しでも多くの方に賛成と御理解をいただけるよう、努力することは続けていきます。

●「意見を聞く」だけでなく「統合を続ける、続けない」は、この場で言えるのではないか。

→○お答えしていく立場ではない、ということしか言えません。今の段階ではここまでで、策定委員会に委ねなければならないことです。今言えば「ありき」になってしまいます。

●策定委員会が決めれば統合は決定付けられるのか。

→○8月の結論は重く受け止めます。決定という形で受けます。

●反対が50%いても、統合するのか。

→○今日の資料に掲載しているアンケート結果は、このような意見交換会が始まる前の段階のもので、どちらでもよい、分からない、という区分の方もおられる。意見交換会を重ねる中で、御意見も変わってきている方もおられると思います。必ずしも現在反対が50%いる、ということではないです。

●資料の中に「小中の連携」とあるが、これは小中一貫校なのか、小中連携校なのか。

→○いろんな形態があります。初倉地区で考えているのは校舎分離型小中一貫校です。

○初倉小と初倉中という隣接校における小中一貫教育で、教師の異動も一番やりやすい状況です。また、カリキュラムを9年間で組めることから、無駄を省いた効率のよい授業が行えます。

●統合に反対である。8月に決定されるとのことだが、それまでにこのような説明会やアンケートは実施されるのか。統合を進めたい人と特に意見のない人で構成されている策定委員会では、話が進んでしまう。この点が「ありき」と捉えられる理由ではないか。策定委員会の中に反対の人がいないとこのまま進んでしまうのではないか。反対者の意見を聞いて欲しい。

→○保護者を策定委員会に入れることは考えていません。再編対象となっている学校の校長を委員に入れています。校長から保護者の意見を反映させることが出来ると思っています。校長には保護者の意見を汲んで意見を述べるよう伝えます。

○策定委員会の日程、4月は決まっていますので、その中でアンケートの結果等を検討していかなければなりません。委員はこの委員会を重く受け止めています。

○検討中間結果については、パブリックコメントを実施して皆様にお伝えします。

●来年度PTAの副会長を担う。3月9日に意見交換会が開かれることを校長に言ったら、知らないといった。校長に情報は伝わっているのか。また、意見交換会で出た意見等の情報提供はしていただけるのか。

→○行き違いがあったと思うが、保護者への通知は学校を通して行っている。学校側は理解いただいていると思っている。3月9日は地域の方をメインとした意見交換会。校長にも出て欲しいと伝えています。

●策定委員会のメンバーは誰か。

→○初倉地区、北部地区の10校の校長のほか、教育長、教育部長、行政経営部長、市長戦略部長、学校教育課長です。

●策定委員会のスケジュール。4月に2回実施なのか

→○4月16日に第2回目を開催します。状況に応じて、回を重ねていく予定であります。

<おわりに>

受入れする初倉小学校の整備、スクールバス等による安全対策、放課後児童クラブの話、小中一貫教育の話、反対の方にとっては反対意見を考慮してほしい、拙速な結論を出さないで再度意見を言わせてほしいなど、いろいろな御意見をいただいております。こうした御意見については、学校再編計画策定委員会へ報告させていただくとともに、この場に参加されていない地域の方、保護者の方にフィードバックして行って、皆さんの共通認識のもと、更に理解を深めていただきたいと考えております。教育委員会としては、子供の利益を最優先というかたちで、将来、子供たちが自分の力で歩んでいけるという、望ましい教育環境を作りたいという思いであります。それに加えて、地域において、学校が無くなったときに地域はどうなるかという心配もありますので、地域の様々な文化が廃れないように、その文化を子供たちが受け継いで育てていく、守っていけるような教育環境を作っていかなければならないと思っています。こうした面からも学校施設跡地の利活用について副市長をトップとする委員会がありますので、教育委員会も参画して総合的に考えていきたいと思っております。